

抗 p53 acetyl-K382 抗体、マウスモノクローナル(2B7E4)

71-133 100 µg

保存： 4°Cまたは-20°Cで送付、-20°Cで保存

抗原： ヒト p53 タンパク質の acetyl-Lys382 を含む合成ペプチド

形状： 精製モノクローナル抗体 (IgG) 1 mg/ml in PBS- with 50% glycerol, ろ過滅菌済

Isotype: マウス IgG1 κ

反応性： Lys382 がアセチル化されたヒト p53 タンパク質。他の種では試されていない。

用途:

1. ウェスタンブロッティング (~1 µg/ml, 図1)
2. ELISA

背景: p53 タンパク質は癌抑制遺伝子 *p53* の産物である。*p53* の変異はヒト癌の半数以上で検出される最も重要な癌関連遺伝子である。p53 は 53 kD の位置に電気泳動で検出され、393 のアミノ酸からなる。p53 は細胞にストレスのない状態では量も少なく不活性な状態にあるが、種々のストレス特に DNA 損傷等により活性化され、細胞周期の停止、DNA 損傷の修復、アポトーシスの誘導などに関与する。p53 の活性はセリンやスレオニンのリン酸化やリジンのアセチル化等の翻訳後の修飾によって制御されている。

p53 の Lys382 部位のアセチル化は DNA 損傷等に応答して p300/CBP acetyltransferase によってなされ、p53 タンパク質の安定化と活性化に寄与する (文献1)。

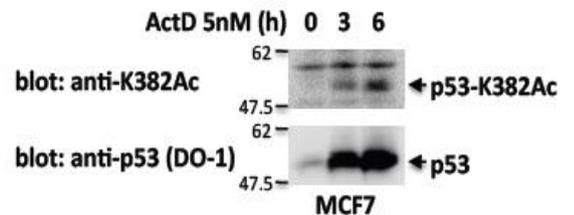
データリンク UniProtKB/Swiss-Prot [P04637](#) (P53_HUMAN)

文献

1. Bode AM & Dong Z "Post-translational modification of p53 in tumorigenesis." *Nature Rev Cancer* 4:793-805 (2004)
PMID:[15510160](#)

図1 ウェスタンブロッティングによる Lys382 がアセチル化された p53 タンパク質の 2B7E4 モノクローナル抗体による同定。

乳がん細胞MCF7株の培養液にアクチノマイシンD 5nM下添加して 0, 3, 6 時間培養してサンプリングした。上のパネルでは細胞抽出液を p53 Ac-Lys382 に特異的モノクローナル抗体2B7E4を用いて、下のパネルでは非修飾p53タンパク質にも反応するモノクローナル抗体D0-1を用いてウェスタンブロッティングで解析した。DNA損傷処理によってアセチル化が誘導される。



関連製品 #71-131 抗p53 acetyl-K120抗体、マウスモノクローナル(10E5)